

決算説明資料

2025年3月期

株式会社ユビキタスAI

代表取締役社長 長谷川 聡

2025年5月20日



© 2025 Ubiquitous AI Corporation. All rights reserved.
This presentation is for informational purposes only. Ubiquitous AI Corporation makes no warranties, express or implied, in this summary.

2025年3月期 業績 概要

セグメント別概況と注力テーマ

2026年3月期 業績予想と重点取り組み

トピックス

2025年3月期 業績 概要

2023年10月に子会社化したグレープシステム社（GS社）の売上が寄与し、連結売上高は前期比+19.0%の大幅増。粗利率の高い製品の構成比が増加し、M&Aに伴う人件費や会社規模拡大に伴う内部統制の整備・運用などによる販管費の増加を吸収。連結営業利益は前期比+46.9%の大幅増

連結売上高：4,138百万円
(前年同期比：+19.0%)

連結営業利益：105百万円
(前年同期比：+46.9%)

※GS社の業績値はデータアナリティクス事業以外に按分

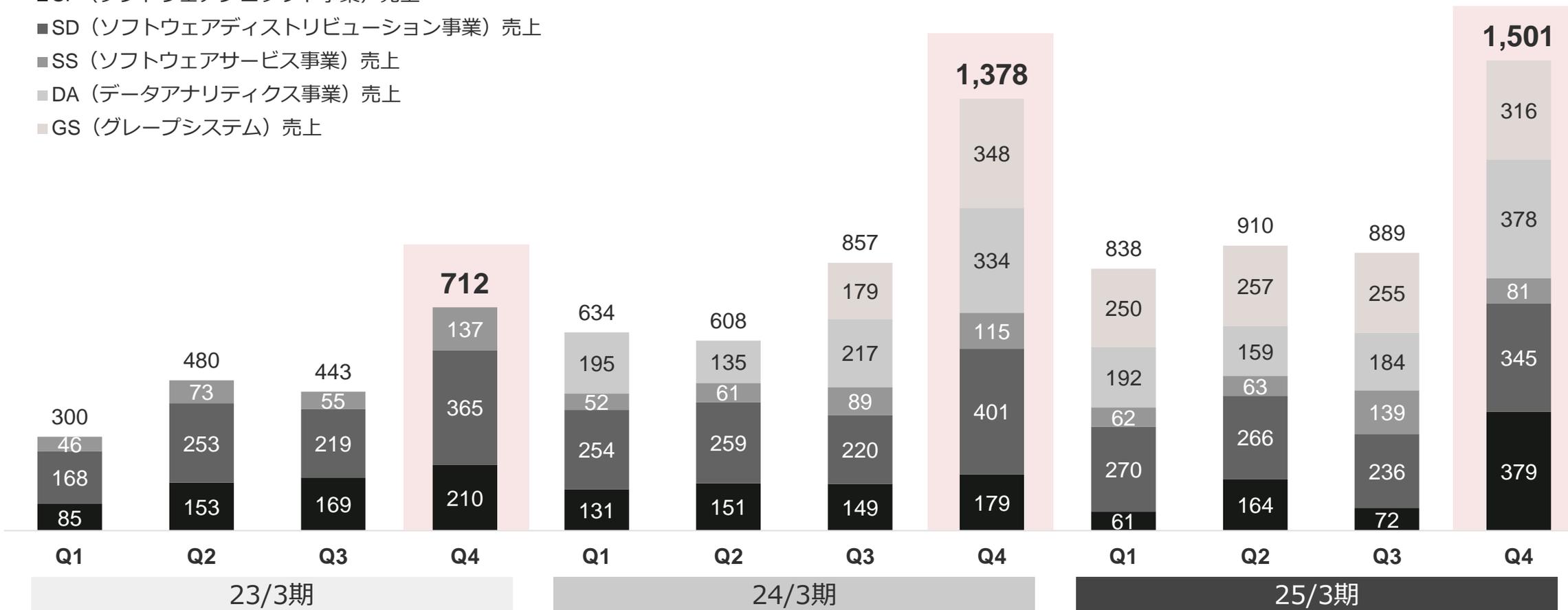
事業セグメント	(単位：百万円)	25/3期	24/3期	概況（対前年同期比）
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	899	689	GS社の売上追加分などにより売上高は増加したが、セグメント共通コスト増加の影響により営業損失
	営業損益	△28	17	
ソフトウェアディストリビューション事業	売上高	1,318	1,242	既存顧客からのロイヤルティおよび受託開発、既存顧客向けライセンス売上の前倒しに加えて、GS社取扱い海外製品の売上分の追加により、売上高が前期比で増加したが、セグメント共通コスト増加の影響により営業損失
	営業損益	△37	△14	
ソフトウェアサービス事業	売上高	1,005	663	既存事業の受託開発売上が好調、GS社売上の通期計上により、前期比で売上高・営業利益ともに大幅増
	営業損益	118	41	
データアナリティクス事業	売上高	914	883	統計ソフトの売上が減少したが、画像処理、AIソフト等他のソフトウェアの売上が増加し、売上高・営業利益ともに増加
	営業損益	51	27	

四半期別 売上高の推移

SPの大幅増が寄与し、QoQでは+8.9%

(単位：百万円)

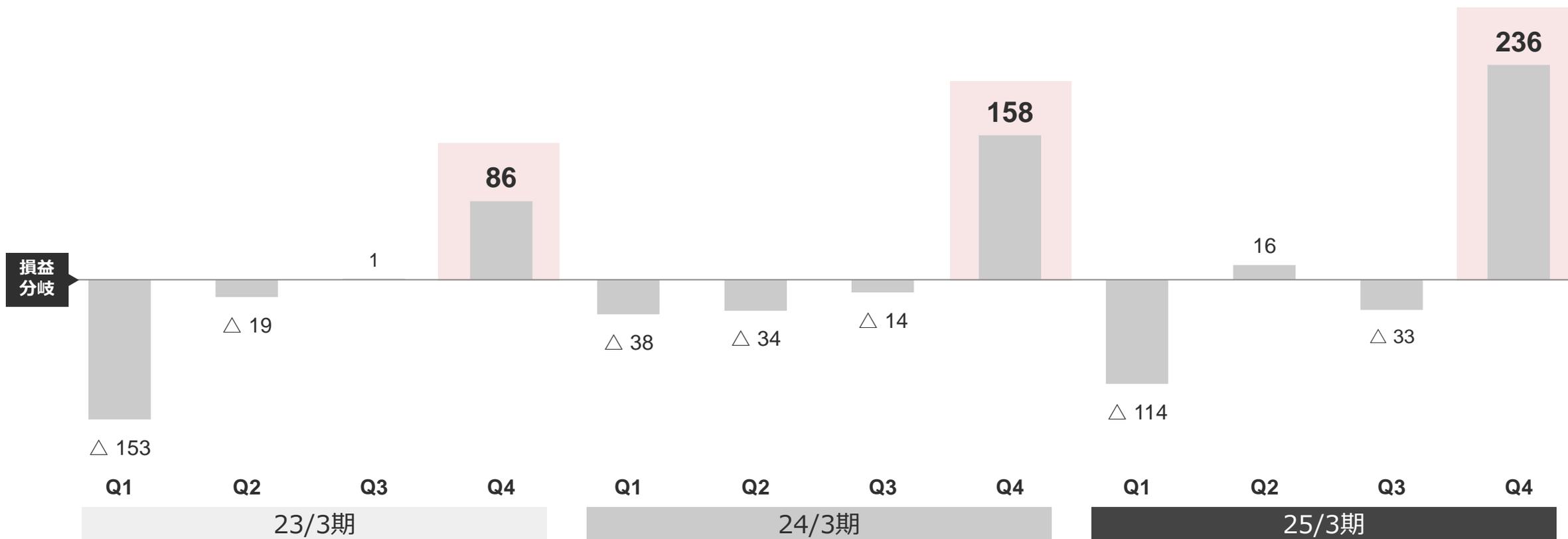
- SP (ソフトウェアプロダクト事業) 売上
- SD (ソフトウェアディストリビューション事業) 売上
- SS (ソフトウェアサービス事業) 売上
- DA (データアナリティクス事業) 売上
- GS (グレープシステム) 売上



四半期別 営業損益の推移

SPの一部ロイヤルティの前四半期月ずれ分の計上、DAの年度末需要による売上増及び粗利率改善により、
営業利益はQoQで+48.7%

(単位：百万円)



前期比：セグメント別売上及び利益

売上高は全セグメントで増加

M&Aに伴う人件費、会社規模拡大に伴う内部統制の整備・運用など販管費の増加により、一部事業のセグメント利益はマイナス

SS事業、及びDA事業の売上増により、営業利益は前期比+46.9%と大幅増

	(単位：百万円)	25/3期			24/3期		増減額	増減率
		従前のセグメント	グレープシステム	連結	連結			
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	678	221	899	689	210	+30.5%	
	セグメント利益	△39	※2 11	※2 △28	※2 17	△45	-	
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,119	199	1,318	1,242	76	+6.1%	
	セグメント利益	△43	※2 6	※2 △37	※2 △14	△22	-	
ソフトウェアサービス事業	売上高	346	659	1,005	663	342	+51.6%	
	セグメント利益	92	※2 26	※2 118	※2 41	76	+182.8%	
データアナリティクス事業	売上高	914	-	914	883	31	+3.6%	
	セグメント利益	※1 51	-	※1 51	※1 27	24	+91.3%	
合計	売上高	3,059	1,079	4,138	3,478	659	+19.0%	
	営業利益	※1 61	※2 43	※3 105	※3 71	33	+46.9%	

(注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 38百万円を含めております。

※2 株式会社グレープシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 55百万円（24/3期は27百万円）を含めております。
 なお、当該のれん償却額は、同社が営むデータアナリティクス事業以外の各事業に按分しております。

※3 上記ののれんの償却額 94百万円（24/3期は66百万円）を含めております。

前期比：セグメント別売上及びのれん償却前営業利益

「のれん償却前営業利益」は199百万円を達成、前期比+44.3%と大幅増

		25/3期			連結	24/3期 連結	増減額	増減率
		従前の セグメント	グレープ システム					
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	678	221		899	689	210	+30.5%
	セグメント利益	△39	※2 19	※2	△19	※2 20	△40	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,119	199		1,318	1,242	76	+6.1%
	セグメント利益	△43	※2 10	※2	△32	※2 △13	△18	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	346	659		1,005	663	342	+51.6%
	セグメント利益	92	※2 68	※2	160	※2 65	95	+146.3%
データアナリティクス事業	売上高	914	-		914	883	31	+3.6%
	セグメント利益	※1 90	-	※1	90	※1 65	24	+37.5%
合計	売上高	3,059	1,079		4,138	3,478	659	+19.0%
	営業利益	※1 100	※2 98	※3	199	※3 138	61	+44.3%

(注) ※1 株式会社ライトストーンの株式取得に関して生じたのれんの償却額 38百万円を含めておりません。

※2 株式会社グレープシステムの株式取得に関して生じたのれんの償却額 55百万円（24/3期は27百万円）を含めておりません。

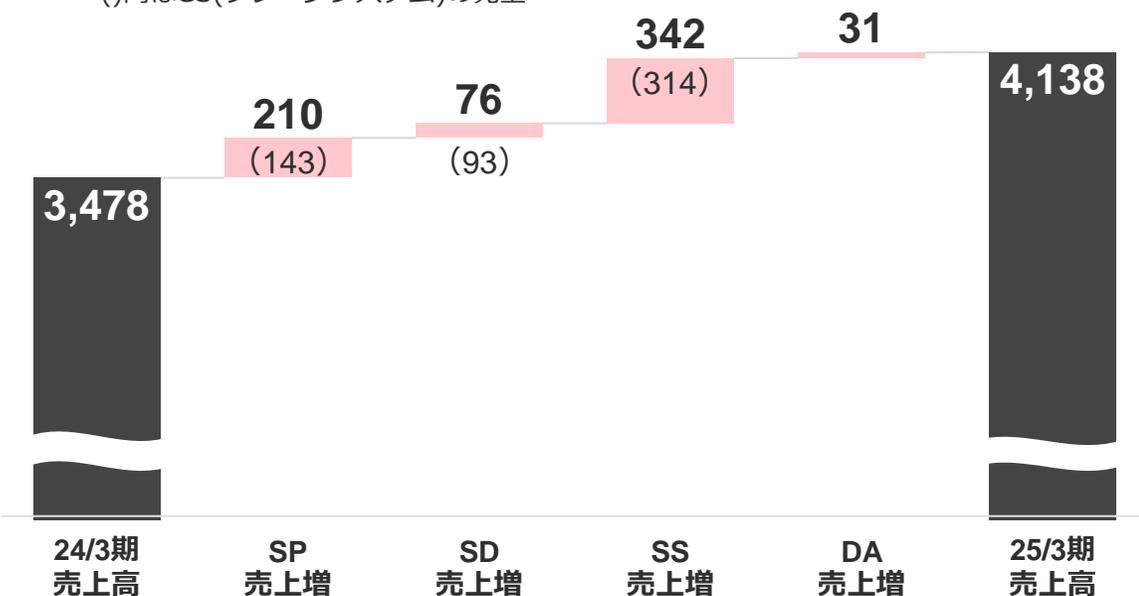
※3 上記ののれんの償却額 94百万円（24/3期は66百万円）を含めておりません。

前期比：売上高（セグメント別及び形態別）

事業セグメント別では、前期比で+210百万円のSP事業と+342百万円のSS事業が大幅増
形態別では、主に受託開発売上が+396百万円と大幅増

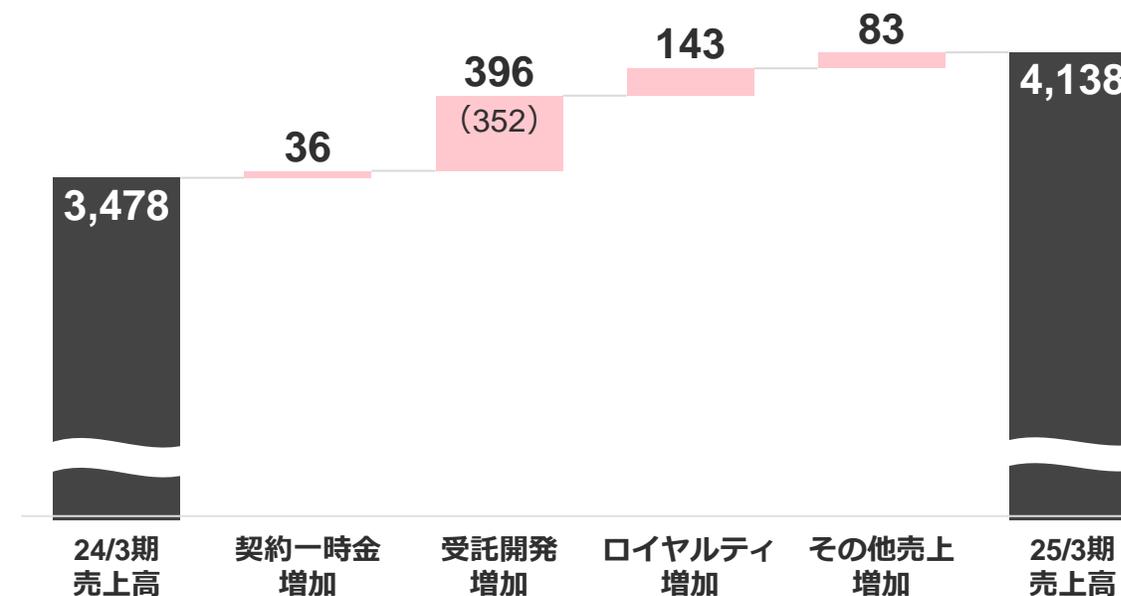
事業セグメント別

(注)SP=ソフトウェアプロダクト事業
SD=ソフトウェアディストリビューション事業
SS=ソフトウェアサービス事業
DA=データアナリティクス事業
()内はGS(グレープシステム)の売上
(単位：百万円)



形態別

()内はGS(グレープシステム)の売上
(単位：百万円)



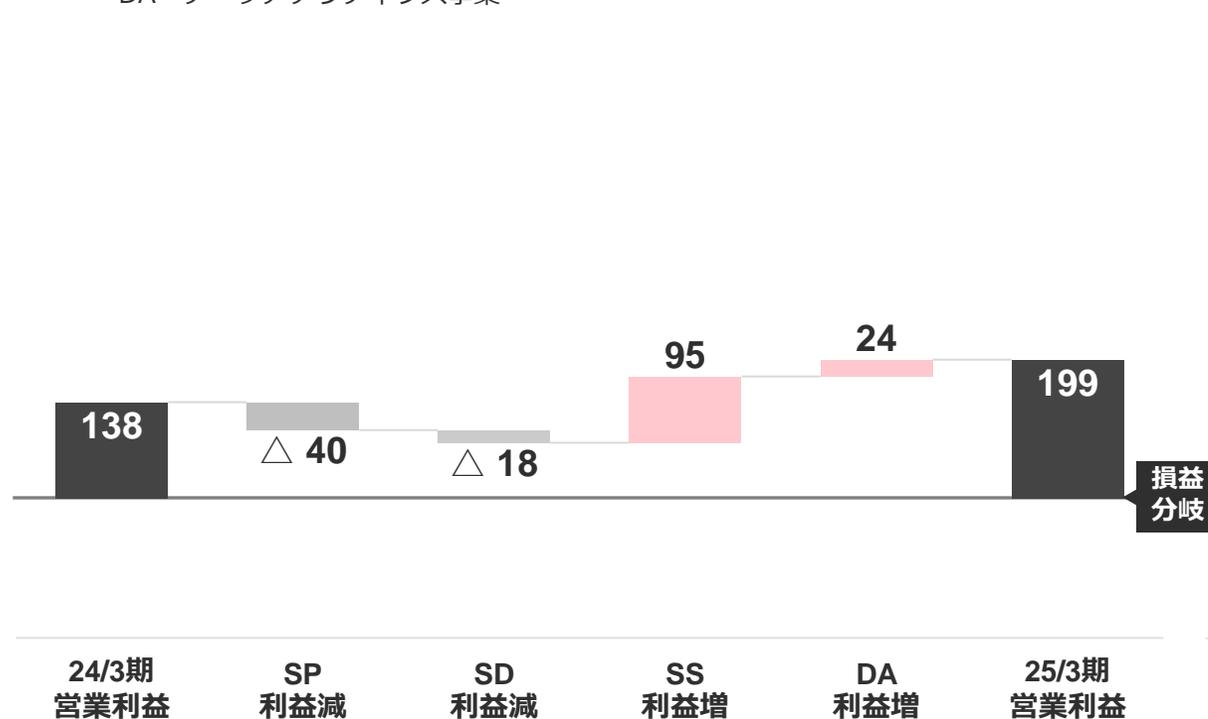
前期比：のれん償却前営業利益（セグメント別及び費目要因別）

SP事業とSD事業において利益が減少するも、SS事業の大幅増とDA事業の増加により、前期比で増加
 費目別では、人件費や体制強化費のコスト増を受託開発売上の大幅増による利益増加により吸収

事業セグメント別

(注)SP=ソフトウェアプロダクト事業
 SD=ソフトウェアディストリビューション事業
 SS=ソフトウェアサービス事業
 DA=データアナリティクス事業

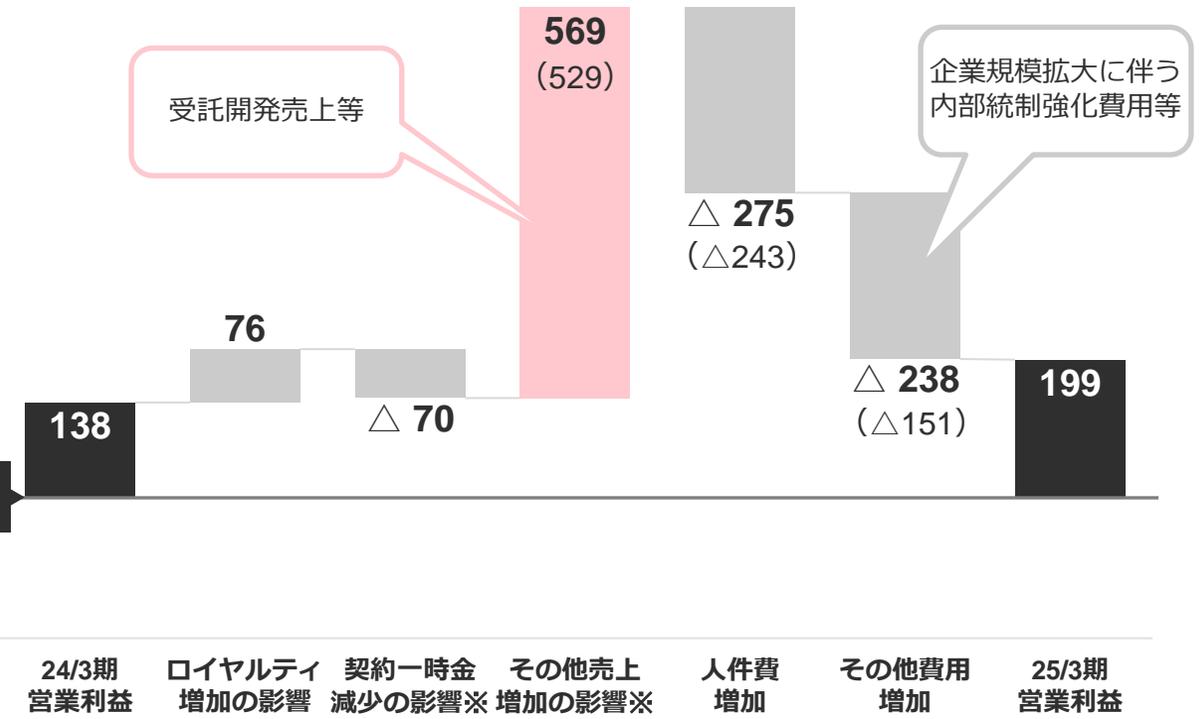
(単位：百万円)



費目要因別

※は売上から仕入れを差し引いた金額
 ()内はGS(グレープシステム)の売上

(単位：百万円)



2023年10月に子会社化したGS社の4-9月売上加算が寄与し、前期比659百万円の売上増（+19.0%）

(単位：百万円)	25/3期	24/3期	増減額
売上高	4,138	3,478	659
売上原価	2,408	2,040	367
売上総利益	1,730	1,438	292
販管費	1,625	1,366	258
営業利益	105	71	33
営業外損益	△3	16	△19
経常利益	101	87	13
特別損益	27	40	△13
税金等調整前利益	129	128	0
法人税等	32	95	△63
当期純利益※	97	32	64

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

前期比：連結貸借対照表（資産の部）

(単位：百万円)	25/3期末	24/3期末	増減額
現金・預金	1,346	1,471	△125
受取手形・売掛金	1,035	1,050	△15
棚卸資産	18	20	△2
前払費用	83	77	5
その他流動資産	30	29	△12
流動資産	2,513	2,650	△136
のれん	348	442	△94
その他固定資産	597	639	△4
固定資産	945	1,082	△36
資産合計	3,459	3,732	262

前期比：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

(単位：百万円)	25/3期末	24/3期末	増減額
買掛金	305	317	△ 12
短期借入金※	28	213	△ 184
未払金	119	93	25
契約負債	100	148	△ 47
その他流動負債	176	191	△ 14
流動負債	730	964	△ 233
長期借入金	36	73	△ 36
退職給付引当金	226	276	△ 49
繰延税金負債	21	45	△ 23
その他固定負債	41	39	1
固定負債	326	434	△ 108
資本金・資本剰余金	2,936	2,936	-
利益剰余金	△634	△741	97
その他純資産	109	137	△ 28
純資産	2,402	2,333	68
負債・純資産合計	3,459	3,732	△ 273

※短期借入金：短期借入金 + 1年内返済予定の長期借入金

通期業績予想（連結）に対する結果

(単位：百万円)

	通期 業績予想	25/3期	達成率 (%)
売上高	4,022	4,138	102.9%
営業利益	40	105	262.9%
経常利益	38	101	267.2%
純利益	△22	97	—

セグメント別概況と注カテーマ

当期注カテーマ

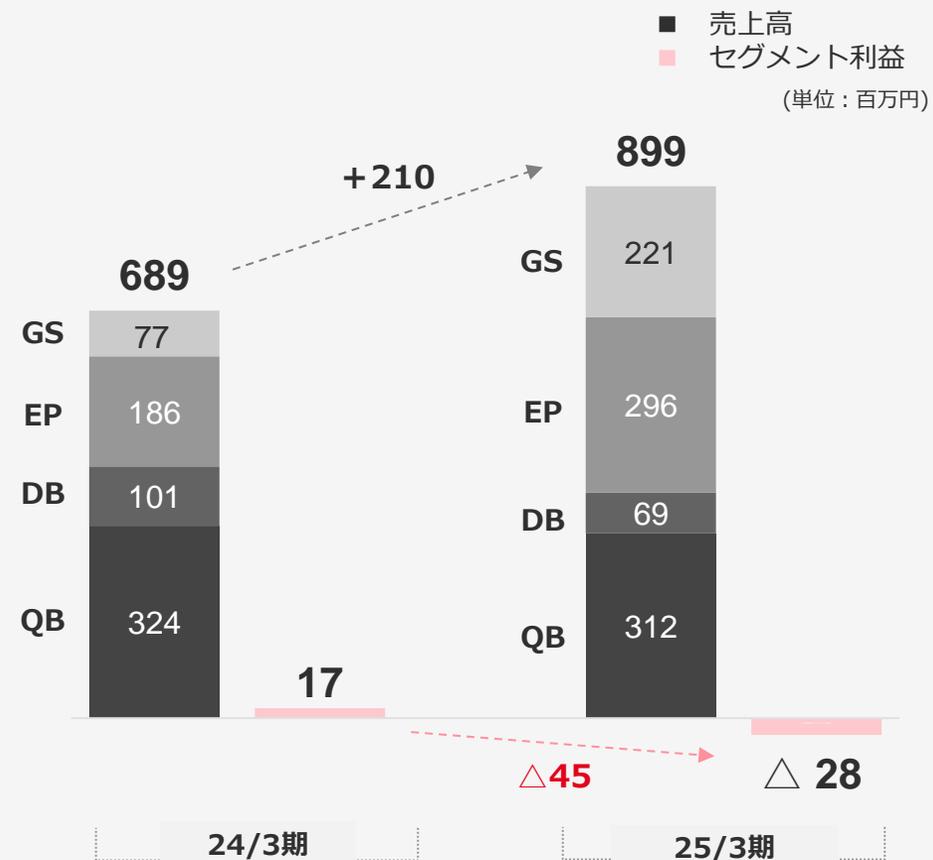
- 高速起動製品における次世代プラットフォーム対応強化と海外展開による更なる事業成長
- IoT機器の脆弱性に対する懸念の高まりに応えるためのセキュリティ製品の販促・提案強化

当期事業概況

- 前期比で売上高は増加、営業損益は減少
 - セキュリティ製品の売上が増加
 - 売上増加要因は、GS社のロイヤルティ売上の増加
 - 営業損益減少要因は、一部顧客の製品生産終了・計画変更等による売上の減少及びセグメント共通コストの増加

- 製品別概況

- 高速起動製品：売上高・営業損益ともに前期比で減少
 - 一部顧客の製品生産終了等によりロイヤルティ売上が減少
- 他製品：セキュリティ製品でロイヤルティを前倒し売上
 - 一部既存顧客の製品生産計画変更の影響によりロイヤルティ売上が減少



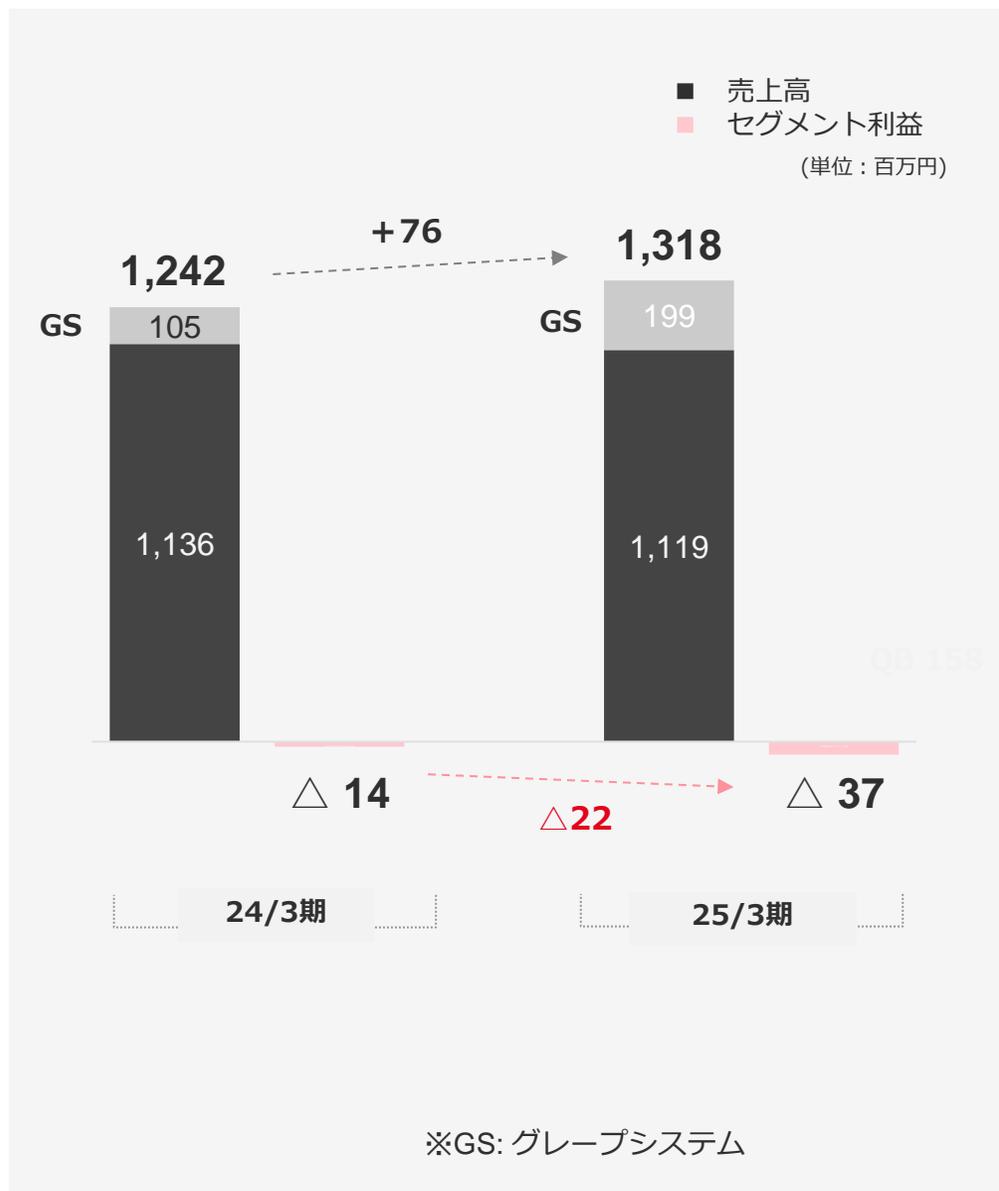
※QB: 高速起動製品
 ※DB: データベース製品
 ※EP: エンベデッドプラットフォーム製品
 ※GS: グレープシステム製品

当期注カテーマ

- ソフトウェア開発品質向上支援ツールの販売推進と、サイバーセキュリティ需要増に対応する脆弱性検証ツール・サービス事業の強化
- 既存の主力製品を中心に拡販展開
- 海外製新商品取扱いを推進

当期事業概況

- 前期比で売上高は増加、営業損益は減少
 - 既存及び新規顧客への開発ライセンス販売、ロイヤルティ及び受託開発売上の増加
 - 既存顧客向けライセンス売上の前倒し
 - GS社取扱い海外製品の売上分の追加
 - 売上増加要因は、GS社のロイヤルティ売上の増加
 - 営業損益減少要因は、セグメント共通コストの増加

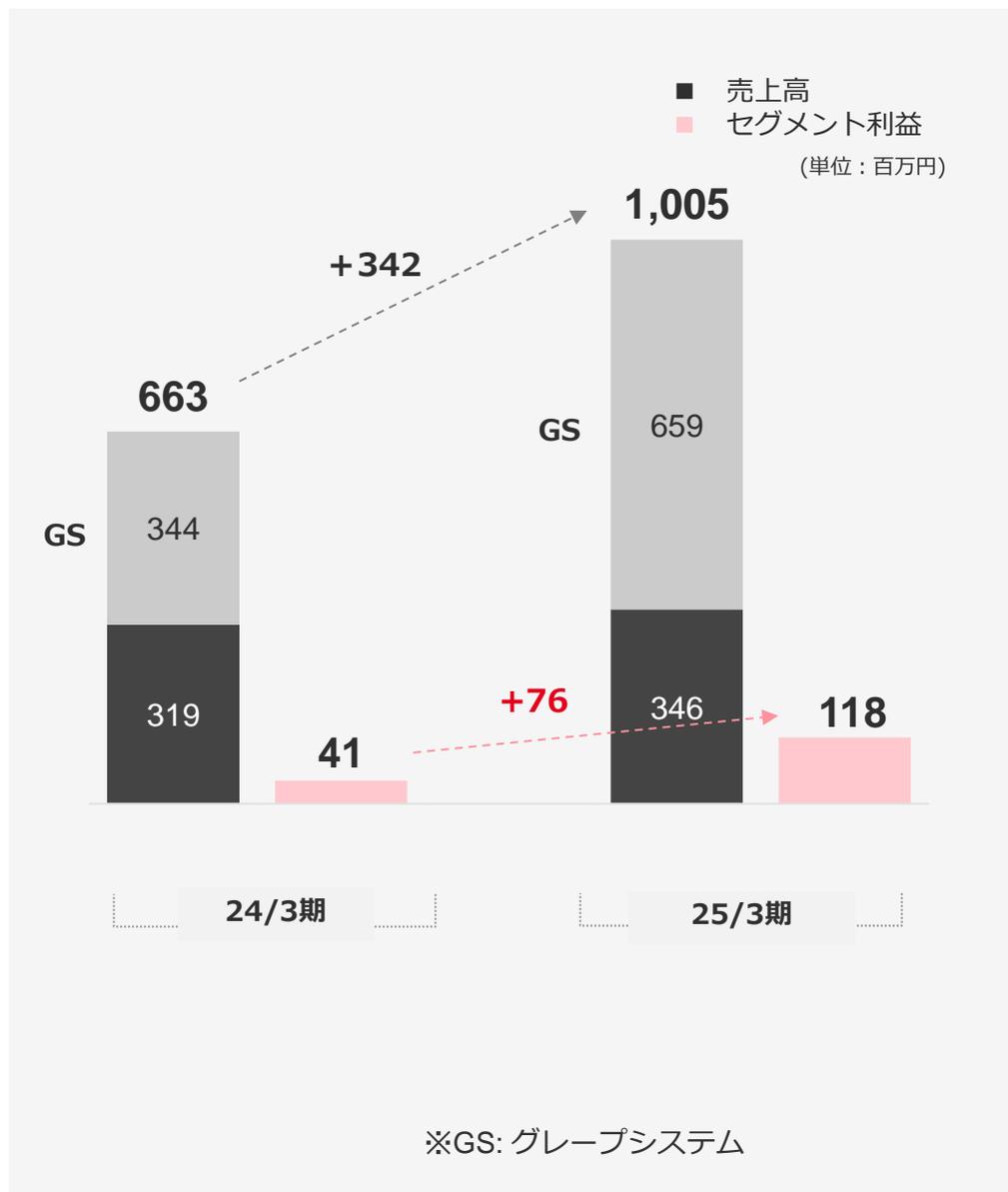


当期注力テーマ

- 既存顧客との長期的な関係構築による安定した受託開発案件の引き合い
- GS社子会社化に伴う受託開発力強化により、製品販売関連の受託開発、製品販売を伴わない既存顧客からの受託開発案件を積極的に獲得
- 米Gracenote社との密な連携による既存収益の継続的確保と、協業提案による新たな取り組みと、車載機器のCD再生機能搭載率低下による「YOMI」ライセンスの減少を補うためのストーリーミングメディアなど新たな分野へのアプローチや受託開発案件の強化

当期事業概況

- GS社の売上により前期比で売上高・営業利益ともに大幅増
 - 受託開発売上が既存顧客を中心に好調
 - GS社売上が大きく寄与

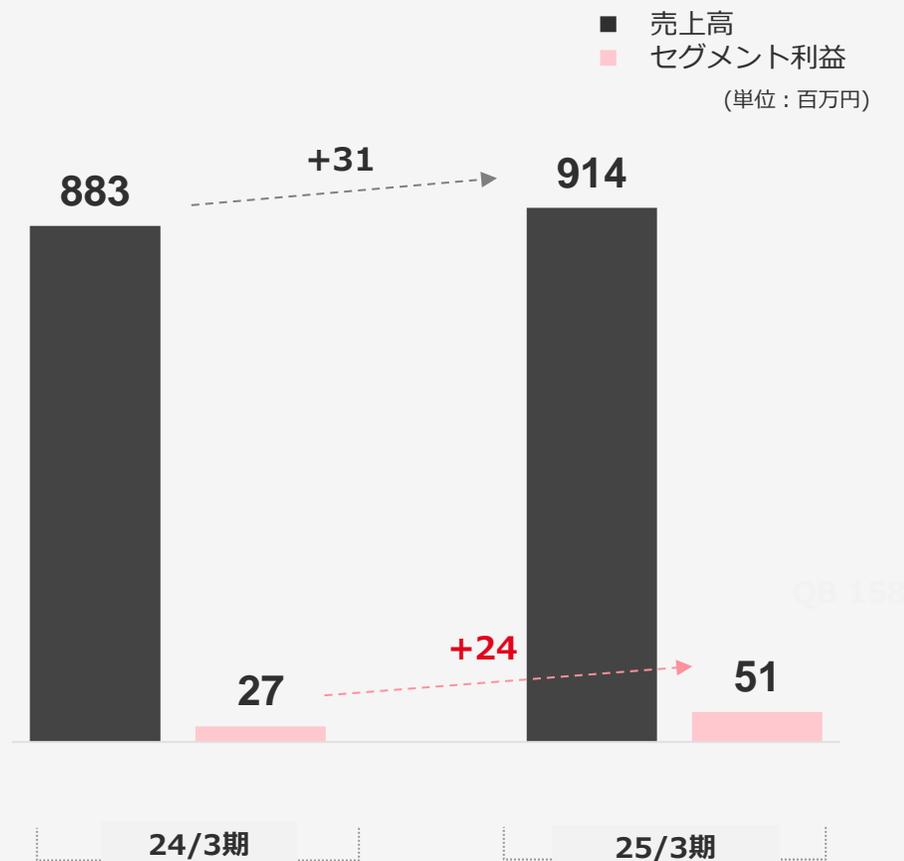


当期注力テーマ

- 主カソフトウェア製品 (Origin、Stata) を中心とした教育機関、政府研究機関、一般企業への販売
- デジタルマーケティング及び学会併設展示会による新規販売強化
- 既存顧客への販促強化による、サブスクリプション (年間使用料)、メンテナンスの更新率向上

当期事業概況

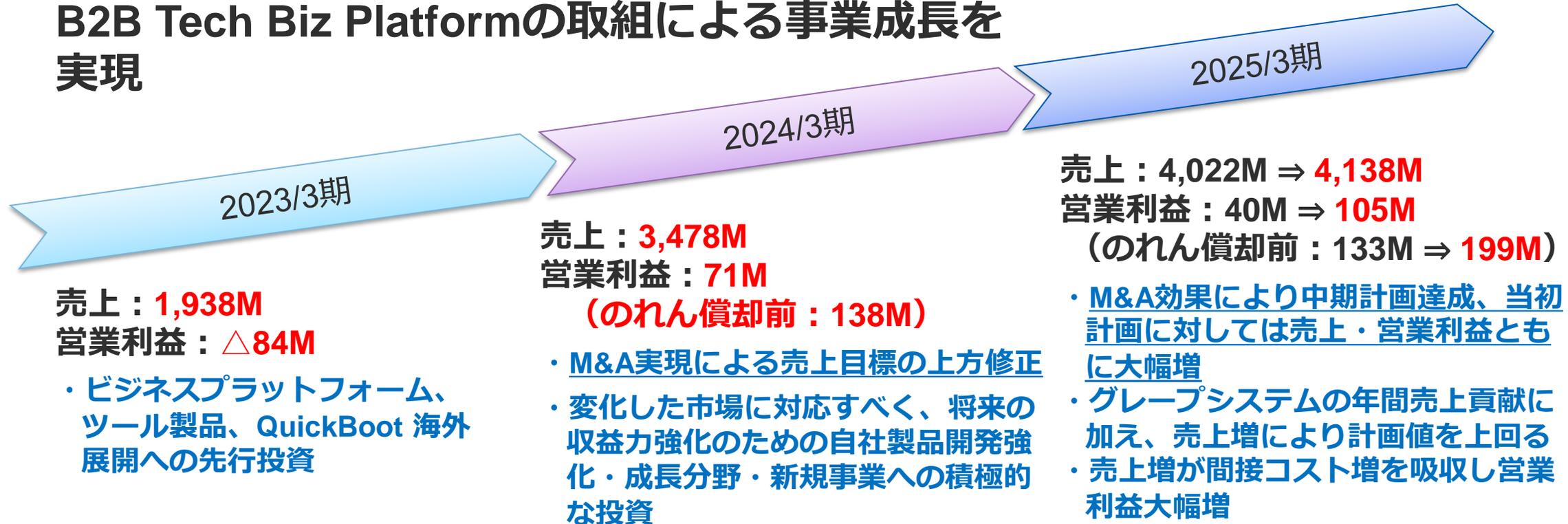
- 前期比で売上高・営業利益ともに増加
 - Origin、MIPAR、Multi-Sigmaのライセンス売上増





製造業顧客が必要とする テクノロジー・サービスを提供する会社

組込みソフトウェア会社としての事業基盤強化と、
B2B Tech Biz Platformの取組による事業成長を
実現



2026年3月期業績予想と重点取り組み

(単位：百万円)	26/3期 (目標)	25/3期 (実績)	増減額
売上高	4,349	4,138	210
営業利益	6	105	△99
経常利益	5	101	△96
当期純利益※	△23	97	△120

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

グループとしての経営基盤と事業連携強化による次の成長に向けた取組に注力する

- 次の成長を実現するための経営基盤整備（業務運営体制整備・効率化、人材採用・育成）
- 前期比売上5%成長を目標とした事業取組
- グループ全体でのデジタルマーケティング取組強化による売上増の実現
- ユビキタスAIとグループシステムの事業・販売連携強化
- 競争力、成長が見込める製品・サービスへの注力（高速起動、開発品質向上支援ツール、デバイスセキュリティ）

ソフトウェアプロダクト事業

売上高： **901**百万円

高速起動・デバイスセキュリティ・リアルタイムOS・2次元バーコード製品を中心に売上目標を実現

既存顧客からの売上に加え、過年度に採用された顧客製品の出荷開始によるロイヤルティ収入など、増加幅は大きくないが安定した売上規模を確保

ソフトウェアディストリビューション事業

売上高： **1,443**百万円

開発品質向上支援ツール関連製品・サービス売上をより強化

多数の製品を取り扱うメリットを生かし、拡販により売上・利益増を見込む

ソフトウェアサービス事業

売上高： **1,055**百万円

既存顧客の継続案件を中心とした売上

製品販売案件関連や、既存取引先からの受託開発獲得を強化

データアナリティクス事業

売上高： **950**百万円

パッケージ製品販売・サブスクリプションを中心に前年度並みの売上を見込む

前期比：セグメント別売上及び利益

(単位：百万円)		26/3期 (連結)	25/3期 (連結)	増減額	増減率
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	901	899	1	+0.2%
	セグメント利益	△23	△28	5	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,443	1,318	124	+9.4%
	セグメント利益	△17	△37	20	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	1,055	1,005	49	+4.9%
	セグメント利益	-	118	△118	-
データアナリティクス事業	売上高	950	914	35	+3.8%
	セグメント利益	46	51	△5	△11.1%
合計	売上高	4,349	4,138	210	+5.1%
	営業利益	6	105	△99	△94.3%

前期比：セグメント別売上及びのれん償却前利益

(単位：百万円)		26/3期 (連結)	25/3期 (連結)	増減額	増減率
ソフトウェアプロダクト事業	売上高	901	899	1	+0.2%
	セグメント利益	△16	△19	3	-
ソフトウェア ディストリビューション事業	売上高	1,443	1,318	124	+9.4%
	セグメント利益	△14	△32	18	-
ソフトウェアサービス事業	売上高	1,055	1,005	49	+4.9%
	セグメント利益	45	160	△115	-
データアナリティクス事業	売上高	950	914	35	+3.8%
	セグメント利益	85	90	△5	△6.2%
合計	売上高	4,349	4,138	210	+5.1%
	営業利益	100	199	△99	△49.8%

| トピックス

2025.5.16

ユビキタスAIのLinux®/Android™高速起動ソリューション 「Ubiquitous QuickBoot」が累計出荷数9,000万本突破



- 2025年4月で発売15周年を迎えたLinux/Android高速起動ソリューション「Ubiquitous QuickBoot」が累計出荷本数9,000万本を突破したことを発表
- システムの肥大化や昨今のサイバーセキュリティ攻撃への対応から、起動時間が長くなる要因が増加する中、QuickBootはオンリーワンの技術としてこれらの課題解決に取り組んできた
- 市場からの需要は益々増えており、よりセキュアで高速な起動のための機能強化、対応プラットフォームやアプリケーションの拡充など、市場のニーズにタイムリーに 대응していく



Ubiquitous AI